

## 特別講演 1

### 「脂質異常症の新展開

#### —残余リスクとしての高中性脂肪血症を考える—

東邦大学医療センター佐倉病院

糖尿病・内分泌・代謝センター教授

龍野 一郎 先生

心血管疾患に対して、ストロングスタチンを用いた LDL-C 低下療法が一次予防、二次予防ともに治療の第一選択であることは論を待たない。しかしながら、その一方でスタチン使用下でも残存する心血管リスクが残余リスクとして大きな課題となっている。これに対して、抗 PCSK9 抗体やエゼチミブを用いた強力な LDL-C 低下療法の有用性が示されている。

その一方で、LDL-C 以外の残余リスクとして高中性脂肪血症が注目を集めてきた。高中性脂肪血症に対する薬物治療としてはオメガ 3 系多価不飽和脂肪酸製剤やフィブラート製剤が主に臨床現場で使われてきた。これらの薬の臨床効果については過去に様々な大規模介入試験が実施されてきたが、一部の研究を除き、必ずしも満足な結果に至っていなかった。近年フェノフィブラート系製剤として、選択的 PPAR $\alpha$ モジュレーターとして分類されるペマフィブラートが開発、発売され、その強力な臨床効果が注目を集めている。本講演では残余リスクとしての高中性脂肪血症の重要性と最新の薬物治療の現状をお話する。